

第 19 回障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会議事概要(案)

日 時 令和 6 年 7 月 29 日 (月曜日) 14:00～16:00

会 場 横須賀市総合福祉会館 5 階 視聴覚研修室

出席委員 井上委員、青木委員、大武委員、工藤委員、崎山委員、白井委員、白石委員、山田委員、
小菅委員、原口委員

欠 席 浅羽委員、熊谷委員

事務局 八橋課長、関澤点字図書館長、窪係長、泉主任

議 題 別紙資料次第のとおり

配布資料 別紙のとおり

審議概要

1 開会、資料確認、定数報告、傍聴人数報告

- ① 事務局が司会となり開会した。
- ② 定員数 12 名中、10 名の出席があり、障害者の情報・コミュニケーションに関する協議会規則第 4 条により会議が成立している旨を報告した。
- ③ 情報保障の一環として、手話通訳及び要約筆記の方にも、ご協力を依頼している旨を報告をした。
- ④ 3 名の傍聴の申し出があり、傍聴を許可した旨を報告した。
- ⑤ 新規委員となった原口委員の挨拶、各委員及び事務局職員の紹介等を行った。
- ⑥ 配布資料の確認を行った。

2 議 事

議事に入り進行は事務局から井上委員長となった。

議事 (1) 「第 18 回協議会の会議録(議事概要)の確認について」

事務局より(資料 1)について、議事録は会話形式により発言内容を要約して事務局で案を作成したものであることを説明した。

特に修正の意見はなく、「第 18 回協議会の会議録(議事概要)」は確定した。

続いて、議事 (2) 「令和 5 年度の情報・コミュニケーション条例に基づく施策の実施報告について」、事務局より(資料 2)に基づき説明し、各委員より次のような質疑が行われた。

【大武委員】

直接この議題にはかかわりがないが、この 2 年ぐらい、失語症が話題となっている。そういう方々への対応はどうなっているのか。失語症である認定方法はどうか、現実に横須賀で認定されている人はいるのか。

私の息子も失語症。言葉を発しきれないが、言われていることの理解はできる。

養護学校、支援学校などでは相当数の児童・生徒が該当するのではないかと。そういったところでは、対応するために色々な体制作りをされているので、大体こういうことだと言えればお聞きしたい。

【事務局】

失語症については、こういう認定を受けたから失語症というのが実際には特にはないそう。

先日、失語症者向けの意思疎通支援者養成講座の講師をされている神奈川県言語聴覚士会の方にお話を伺った。失語症者の定義で、脳機能の障害で発語がしにくい、まとまった話ができない。常にそういう状態でなくても場面による。家族と話ができるが、外に出かけて初対面の方とはどうしても言葉が出てこないとか、そういったことも含めて失語症とするという話を伺った。

認定というと、診断書が必要になりそうだが、その方の状態によって失語症と捉える、ということなので、多くの方がいるのではないかと思うが、はっきりと、横須賀市に何人いるかはつかめていない。

今年度から始まっている障害福祉計画の中で、失語症者向け意思疎通支援の利用者見込みを出した。

失語症の事業は、横須賀市では令和3年度から実施したが、派遣の実績が一度もない。見込量を定めるにあたっては、横浜や川崎の利用実績や人口などから計算した。年間で、利用するであろう人数は横須賀で見込みとして2～3人くらいではないかと。全体の人数とは異なるが、利用するであろう人数はそのような見込みを立てている。

他に質疑はなく、議事(3)「令和6年度の情報・コミュニケーション条例に基づく施策の事業計画について」に移った。

事務局より(資料3)に基づき説明し、各委員より次のような質疑が行われた。

【大武委員】

説明ありがとうございます。

手話通訳、要約筆記などは技術を持った人が必要で、誰もができるわけではなく資格制度になっている。我々の団体でも定例会等でご支援をいただいている。女性ばかりだが、男性はこういう世界には入りづらいのだろうか。年齢制限はあるのか。

今の時代、男性もこの世界に入っていくって、いろいろな中でお互いの課題を分かち合わない色々な意味で先がないのでは。

【事務局】

ありがとうございます。

確かに登録者の中に男性はいないかもしれない。

手話講習だと男性の受講者はいるが、確かに少数。年齢制限ははっきりとは設けていないが、手話

講習を初級から始めて、市、県の講習を受けて最後に試験がある。少なくとも5年かかるので、あまり年齢が上の方だと、実際に手話通訳者としての資格が取れても、活動できる期間が短くなってしまふので、なかなか難しいという感覚がある。

いろいろな年代にまんべんなく通訳者がいて、うまく世代交代をしながら、安定した人数を確保できれば一番いいと思う。皆さん、仕事を持ちながら色々活動している。その中で女性も多いかと。男性に呼び掛けるというよりは、働きながらの活動を考えていくことが必要かと。

【大武委員】

やはり、年を取ってしまうと、男性はちょっと中に入りづらい。50歳になるかならないうちに、こういうことを知り、色々な障害などを一緒に考えていくことが実現できれば。私達の会でも、活動しているのはほとんど女性ばかり。男性は1割いかない。違った形での社会運動になるのでは。

【井上委員長】

報告ありがとうございました。

手話講習会の応募の際、今回の抽選の方法の説明があったが、応募した全員にオリエンテーションを行い、希望を確認したうえで抽選する流れはとても良い。今後もその方法で実施する予定なのか。

一度、話をオリエンテーションで聞いているということが、今回の受講に繋がらなくても、次回以降につながると思うし、そういう効果もあると考える。私としては、継続できると良いと思うので、今後のご予定を教えてください。

【事務局】

ありがとうございます。

講師とはまだ話していないが、今回のやり方は市としてはとても良かったと思う。

令和5年度は当初25人からスタートして7月にはすでに17人くらいになっており、途中で離脱してしまった人が多かった。今年は、今どれくらい残っているのか把握していないが、かなり残っているよう。

最初のオリエンテーションでしっかり説明をしているので、長い期間参加が必要と意識していただいていると思う。良い取り組みだったと思うので、次回も同じように実施していきたい。

【山田委員】

横須賀中途失聴者・難聴者の会こだまの山田です。

緊急時の対応で、総合福祉会館の4～7階のフロアにWi-Fi環境を整備するというのは具体的に、自分の携帯に緊急情報が来るのか、どういう意味なのか。

【事務局】

福祉施設課に具体的にどんな機器を入れるか確認していないが、去年の予算の段階では、Wi-Fiを入れ、例えばタブレットや通信機を窓口に貸館で来た方に、受付から緊急時に、タブレットを通じて

知らせるなどできないかを検討中。Wi-Fi を入れて緊急時に機器を通じてお知らせすることを想定している。

【山田委員】

わかりました。ありがとうございました。

【青木委員】

動物村のお祭りに手話の体験ブースを作ったという話。このお祭りに去年自分の娘を連れていった。兄弟や家族連れが多く、私としては、同じような境遇の人に会えて嬉しかった。逆に言うと、そういう人たちが興味を持ってくれるイベントだと思った。

下の点字図書館フェスティバルも障害福祉のイベントだと思う。

先ほどの話で、障害福祉以外のイベントにも積極的に力を入れ、手話に限らず、いろいろな体験があり、去年も障害スポーツの体験があった。

イベントとして多く実施しても、ブースに来るのは興味がある人なので、幼稚園に出前授業に行くとか、小学校にしても体験授業など、総合の時間に使えないかなど。

【事務局】

イベントに参加するのも一つの手。

出前授業のようなものは市だけでは難しいので、協会の方や団体の方と一緒にできるように考えていく。

【工藤委員】

コミュニケーションと支援者の養成講習会について。zoom を使って講習会に参加いただくのは難しいのだろうか。

【事務局】

難しいかと。

実を言うと、今年度から、手話講習会のカリキュラムが全国的に変わり、それに合わせた講習会となっている。

インターネットを使い配信されたものを見て、予習してきてもらう。講習会ではそれを振り返りながら、詳しく学んでいる。そのあと同じ動画を見て復習するかたち。

素人考えですが、ニュアンスのようなものは、対面ではないとむずかしいのではと。

そのあたりも選択肢としてあるかどうか講師と確認する。

【小菅委員】

点訳音訳ボランティアについて。保健所の方でも電話相談するボランティアを募集している。同じように講習会を実施し終わった方に実施していただく。こちらも課題があり、新しい人も入ってもらうが、前々からやっていた人が、家庭の事情で辞めて行ってしまう。

点訳音訳ボランティアの現在の状況は、ボランティアが求められている数を登録してもらっているのか。課題はあるのか、教えて欲しい。

【関澤館長】

点訳ボランティアの方は130人の方にご登録いただいている。音訳ボランティアは63人。iPadのボランティアは9人。

正直いって、音訳ボランティアのほうが足りない状況。点訳、音訳は新しい本が出たとして、その本が出来上がるまで、点訳・音訳、両方とも1年ほどかかる。

足りるか、足りないかというより、いてくれたほうが、こちらとしてはありがたいという状況。

他に質疑はなく、議事(4)「令和7年度～9年度の事業計画策定に向けた課題と必要な取り組みの洗い出しについて」に移った。

事務局より(資料4)に基づき説明があり、各委員より次のような質疑が行われた

【青木委員】

2つあります。まず1つ目。

他県で調べた。通訳のアプリを県として開発しているのか定かではないが、モードが病院モードとか避難所モードとか選べるもの。

とても使いやすいと思ったら、障害者だけではなく、発達障害などの言葉の難しい子どもも使える。幅広く利用できるアプリとして開発されている。通訳アプリというよりはコミュニケーションの方法と県のホームページに載っていた。予算の問題もあると思うが、横須賀市として、新しいものがあったら面白い。

もう一つ。

前回発言した内容で、避難訓練をやりたい。色々な障害者で一泊の避難訓練をやりたいと強く思っている。前回ここで話したときには一泊だとハードルが高いと言われた。そのハードルが予算なのか人員が足りないからなのかはわからないが、ハードルが高いという意味は、私は1泊するのが大変だからと捉えた。いきなり地震が起きた時に、そのハードルが高いことをできるのか不安。ハードルが高いからこそ、避難訓練としてやるべきではと思った。来年以降の案としてやって欲しい。

【事務局】

避難訓練の件、前回話があったのを覚えている。できる方法がないか常に考えている。ご意見ありがとうございました。

【工藤委員】

情報取得及びコミュニケーションの支援のための機器の情報収集、利用普及についての報告は、市民向けの啓発が既存事業にあり、現状として、市が開催する講演会には通訳が配置される。

市内を見回すと、色々な業種団体があり、企業が集まっている団体やロータリークラブとかもあ

る。そういう、各団体にこういうことを周知するのは良いのではないか。

逆に、障害者の方への情報、このセミナーは通訳者が配置されている、などの周知があると、障害者の方も参加しやすいのではと思う。

障害者理解を深めるための市民啓発ということでは、タウンニュースの読者がとても多く、ここから情報収集をする方が非常に多い。予算の関係もあると思うが、タウンニュースでは一枚追加で両面記事を掲載することができる。年に1回など広報を出せると良い。単発だけだとすぐ忘れられてしまうので、定期的にやることで、意識を持ってもらうことは可能かと。

それから、「不特定多数の人が集まる場所における音声、文字、手話、視覚情報等による情報提供の充実について」は、具体的には、どういう情報を流すのか。イメージとしてはどういうものか。

【事務局】

最後の質問について。

ショッピングモールなどで、音声でしか提供されないイベントの情報やお知らせを文字情報として見れるとか、基本的な各施設で行われる情報を様々な方法で同じ情報を受け取れるのが最終的に理想のかたちかと。

【工藤委員】

地域の中で、ローカルビジョンだったか、横須賀中央など、街中にディスプレイで情報を出している。施設の中だと移動式で設置していたりする。

費用がほとんどかからず情報保障ができるので、あぁいったものをうまく活用すると、市の施設や商業施設で使えるのでは。民間がやっているのだから、民間のお店の広告の合間などに流すことができるかと思うので、そちらと連携しても良いのでは。

【事務局】

ありがとうございます。

最初のご発言の講演会などでの通訳者の配置について。

私も課題に感じている。今までの計画だと市の講演会しか載せていなかったが、市以外にも色々な団体や民間団体についても普及していかないと考えている。民間団体等についての啓発の視点で、目標や計画が必要だと思った。

タウンニュースの話があったが、講習会などでは、広報が肝だと思っている。というのも、今回手話講習会で、60人応募があった。ドラマの影響で注目を集めていたこともあると思うが、広報よこすかに記事が載ったことが大きい。一方、手話教室は、広報よこすかは募集の記事が絞られている関係で、掲載がされなかった。最初は9名しか応募がなく、焦っていろいろな方法で集めた。

広報よこすかに掲載されるか、されないかで大きな影響があるのだと実感した。できるかどうかはわからないが、予算をかけてキチンとした媒体で募集することが必要だと個人的に思った。

【工藤委員】

例えば、X（旧 Twitter）とか、LINEでもできるので、若い方にも情報が届きやすいかと。

【事務局】

ありがとうございます。

市のXもLINEもあるのでなるべく使う様にしている。

【崎山委員】

横須賀基督教社会館の崎山です。

今後の課題というところで、全体的に、支援者の派遣について、どういうことを誰が、派遣を受け人なのか、対象者はどこまでなのか、誰が派遣できる人なのか、改めて確認したほうがよいのでは。

手話通訳についても、講習の時間帯で、状況が変わってくるので、男性が受けにくかったり、仕事の部分で難しいところもある。制度の問題もある。手話通訳に限らず、他の派遣にも同じような課題がでてくると思う。

似たような部分があると思うが、初級はこのぐらいのレベル、基本はこういうレベルとか、応用になるとこのぐらいと、確認していくのがいいかと思う。時間はかかるかもしれないが、事業の内容を改めて、まずは、委員の中での、確認、理解をしていくのがいいと思う。

障害者差別解消法で、民間の努力義務が義務に変わったところがある。やはり民間の義務の部分も難しく、対応がしきれないところがある。そういったところで、支援の啓発、市民に対してだけでなく、企業含めたところに対しても啓発が必要。

市のLINEでは広報系が主だと思うが、市民に理解をしてもらうための情報源としてうまく使えれば、市民や企業への理解が深まるのではないかと思う。

ただ、LINEの登録がされてない、広がってないというか、職場の中でもどれくらい、というのがある。

ほかのYouTubeなどの媒体を利用して、更新ペースをあげると、市民の理解も含めて広がると感じている。

大きいところとしては、それぞれの講習会、派遣の理解がまず出来ればと思う。

【事務局】

ありがとうございます。

参加してくださる本協議会委員の方、いろいろな立場の方がいる。それぞれの事業の具体的な内容（概要）をきちんとお知らせしていなかったと。何か、今後の協議会の中で説明できればと思う。

いろいろ、企業の啓発の部分でも工藤委員からのご意見等もありましたので考えていきたい。

【工藤委員】

補足説明すると、先ほどのXやLINEについては、協議会としてのXやLINEができないかと。市の情報の中では埋もれてしまうので。

【事務局】

できるかどうか話してみる。

【青木委員】

広報よこすかは新聞折り込みですか。

【事務局】

町内会などで、配布してもらう。

【青木委員】

町内会にみんな入っているか、というと私も友人も入っていない。若い人はあるあるだと思う。強制ではない。一人暮らしは入らない傾向。

広報よこすかは、私は届かない。私はホームページを見て情報が得られるが、市民公募の委員の募集も母から聞いて応募した。若い人には届いてない印象。

先ほど、Xで情報を流すのはどうかとあったが、Xは見づらいと私は思う。投稿した部分までさかのぼらないと情報がでてこないで埋もれてしまう。

LINEとか、「手話の募集」など、募集中の検索しやすいもの、分かりやすい検索ができると若い人に見てもらえるかと。

若い人はLINEをしている人が多いが、Xは離れつつある。

新しく、横須賀市をフォローして、情報を見ようというものにはならないかと。

若い人はTikTok（ティックトック）とかインスタグラムがメインになっているかと。

【事務局】

ありがとうございます。

支援者の養成に関しては、まんべんなく、いろいろな年代の人に集まっていただき、支援者になっていただきたいという思いの一方、若い人にどう伝えるかが問題だったので、いただいたご意見を参考にしたいと思う。

【大武委員】

いろいろな意見、参考になる。

この協議会に長くいるが、横須賀市の中で何ができるのかおおむね理解していると思う。とはいえ、他の市ではどうか、県内の他の地域と活動情報を比較対象していただければ。

横須賀は、YRP 情報を集める研究機関がある。そういった成果から日常生活に活用できるようにすればいいのでは。10年くらい前に神戸で実験している。横須賀市もAIとか、新しい情報を行政に持ち込むとか。サポートする機器も進化しているので、紹介してほしい。

私の息子も手を使うボードから抜け出せない。若いお子さんたちに早く使い慣れていただいて、新しい機器を使えるようになってほしい。

【事務局】

福祉の比較をしっかりとしたい。ICTについても、市で力を入れているところなので、できるところで連携したい。

【白井委員】

2件あります。

支援者養成講座について。

点訳、音訳、手話通訳など、人が足りていないというのがどこの市でもおきている。例えば横須賀市で足りなければ他の市町村にヘルプを出すとかは可能なのか。

手話通訳で横浜市に通訳をお願いしたい、というときに横須賀市で足りないのならば横浜市にお願いするような横のつながりが出来たら良いのでは。

話が被るが、情報の啓発に関して、子供向けに啓発する部分。中学、高校では横須賀南高校には福祉科がある。専門学校であれば看護系、そういうところで講演をし、さらに保護者に資料を渡せば、30代から50代前半の方に、情報をパスできる。連携ができれば。

映像があればわかりやすいので、公式インスタやYou Tubeなどに載せていれば色々な履歴から見れる。可視化できる部分があるといい。職員の勤務のこともあるので、何か新しいことをするときには何かをプレスしないと。そのあたりうまく考えていただければ。

【事務局】

ありがとうございます。

広域の連携については、手話通訳や要約筆記については仕組みがあるが、はっきりと把握していないが、あまり実施はされていないのかと。今後、通訳者が市区町村で対応できる人数でなくなってきたら、広域での連携は大事になってくると思う。

啓発に関してはいろいろありがとうございます。福祉系の大学も市内にいろいろある。興味を持ってくれそうなところを考えて、優先的に啓発していくなど考えられたら。

【原口委員】

子どもの部分です。

前の議事録にあったと思う。事業計画等、神奈川歯科大や高校の生徒さんが点字図書館の見学など、子どもたちも関わっているよう。

小中学校では総合的な福祉の時間に福祉を扱う学校が増えている。ただ、どういうふうに関わり、理解させるか等の情報がなかなかない。出前トークや初心者向けの教室の開催など、経験させてあげるといところでは、意欲的にやっている。そういったところで、きっかけにしながら福祉の勉強をしていく。総合的な時間は深く学ぶ。子どもたち自身に情報を、そういう形での提供ができるということ、学校現場に周知したら。

総合的な学習の研究をしている集まりや校長会などで情報提供をしていただければ、学校からオファーがあるだろう。子どもが学ぶと関連する大人も学ぶことになる。

【事務局】

ぜひいろいろ、この後のことも含めてお話を伺いたい。

福祉からも学校にどのようにアプローチしていけばよいか、手立てがわからないので、ありがとうございます。色々教えていただければ。

【小菅委員】

1つ目は、7～9年度の事業計画ということで、ボランティアの話もしたが、コミュニケーション等支援者の実際の数が足りているのか。明確にさせていただけると、具体的な施策として議論しやすい。

2つ目は、青木委員も言っていた災害について。

私達も救護所の運営をやることになる。

今、要約筆記、後ろでやっていますが、素晴らしいと思う。言ったことをすぐに表出して、だれもがわかりやすい。手話通訳もそうだが、そういう人たちを災害現場に派遣していいのか。災害現場で状況にもよるが、ぜひ入っていただき、必要な情報がきちんと伝わるようになればと思う。

【事務局】

ありがとうございます。

支援者がどのぐらい必要なのか、計画を立てる上では、目標値もしくはあるべき数を示してからというのはその通りだと思う。今度考えたい。

災害現場への派遣ということは、通常の手話通訳、要約筆記の方に対して、災害時であっても、どのぐらいではじめられるかにもよるが、派遣依頼を受けて、派遣に行っていただくということは災害時であってもやらなければならない事かと。

いわゆる、個人に対する派遣ではなく、施設での情報保障というものは、今、仕組みとしてはないので、参考にさせていただく。ありがとうございます。

【井上委員長】

私から。大きく分けると2つ。

1つめは、委員構成について。

現在12名の委員の方がいる。私は精神保健福祉が専門。この委員の中に、精神障害の当事者・支援者が参加されていない状況が気になっている。

人数を増やすことができるか、具体的な手立ては分からないが、どの障害の方にも平等に情報やコミュニケーションを伝えていくという協議会ですのでぜひご検討を。

もう1つは、他の方からの話もありましたように、災害のことについての情報保障は今後、ぜひ考えていく必要があるかと思う。具体的には、障害種別で避難所を分けることや、先ほどの避難訓練とか。

情報発信、どのような情報提供をするのか、というのがこの協議会で議論することだと思う。

どういう掲示が災害の際に障害種別の方に有効なのかを整理し、モデルを示してパンフレットなどにするとか。障害を知っていただくということにつながるかと。

東京オリンピックでピクトグラムが話題になったが、ああいった、一目で見てわかるものがあれ

ば。あまり具体的な手だてを示せないが、私からは以上です。

【事務局】

委員構成については、今後検討したい。

災害時の情報保障について。いろいろな委員方からも課題として持たれている。

災害時の情報保障についての計画、枠組みとしては施策の体系の中で作っていくことになるが、どこかに落とし込めるような形で考えていこうと思う。

【山田委員】

緊急時の情報保障について話がでた。要約筆記や手話通訳の方に緊急時に来ていただくのはとても必要だと思う。

以前、私が地域の防災訓練に参加した際、手話通訳の方が来られなかったが、聴覚障害者の方がいて、手話でお話をしていた時、避難訓練に参加された方の中に「私は手話ができます」という方がいた。少し手話で通訳をしてくださった。

そうやって地域でも手話とか、介護とか、いろんな支援ができる方がいると思う。そういう方の把握を地域として、市として名簿などをつくって、その方に支援をボランティアとしてお願いしてもいいと思う。

【事務局】

実をいうと、我々もきちんと全容を把握していないが、危機管理課で、手話通訳や介護など、災害時に支援をするためのスキルを持つる方にボランティア登録するしくみがあり、募集をしている。そこに手話通訳や要約筆記の方も、手話を学んでいる方を登録していただけるものになっているかと。それがきちんと動くようになれば、支援の体制も整うと思う。

他に発言はなく、本日の議事は全て終了した。

【事務局】

今年度の第2回の開催は、年度末を予定している。

日時、場所等が決まりましたら、あらためてご連絡する。